

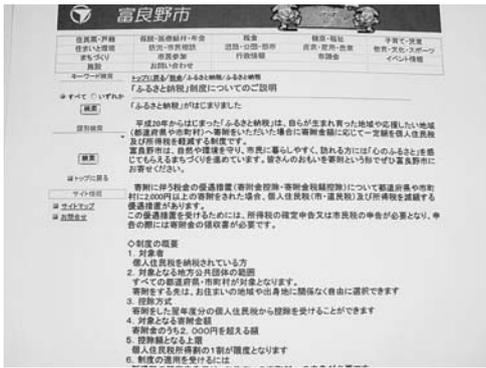
渋谷 正文

(ふらの未来の会)

寄付金の取り扱いと市民参加

問 寄付金実績と使途、成果は。

答 一般及び指定寄付の過去5年間の実績は、総体的に減少傾向。ふるさと納税制度は、平成20年4月に導入。ホームページで概要を紹介し、東京ふらの会等でも寄付の呼びかけをしている。件数は年4〜5件で推移し、金額は5年間で631万5千円。使途については、ふるさと納税は一般寄付として取り扱っており、地域振興基金へ積み立てて。成果としては、この制度は本市



ふるさと納税制度

に関心と愛着を持って市外から寄付を頂くものであり、まちづくりの推進に資する貴重な財源として役立っている。

問 寄付金を頂いた方への使途の通知は。

答 寄付の際、一般寄付なのか、指定寄付なのか確認のうえで受領している。寄付者の意向に沿った形で処理しているので使途の通知は行っていない。

問 交流人口が多く、また、定住自立圏の形成を念頭におく本市は、使途が明確になることで

寄付が増えるのではないかと。市内・市外の方が積極的に市政に参加できる制度の整備や、ふるさと納税制度の積極的展開をしてはどうかと提案する。関連してふるさとサポーター制度の導入に向けての考え方は。

答 今後においても現行の取り扱いで対応する。ふるさと納税の呼びかけを継続的に行い、農村観光環境都市、移住定住対策等の紹介など対外的なPRを充実させる。ふるさとサポーターについては今後調査研究をする。

◇情報機器の管理のあり方

◇その他の質問

広瀬 寛人

(ふらの未来の会)

医療の充実・確保対策は

問 地域センター病院の医師充足状況と人件費等の現況は。

答 常勤医が21人、出張医が常勤換算で8.2人。診療科目によつて常勤医不足が生じ、出張医への依存も大きくなり、医療収益に対する人件費比率が前年より増加している。

問 地域医療における優先課題や、医師招へい施策は。

答 新たな医師の確保と、現在いる医師の就労環境の改善に努め富良野での医師の定着を図ること。本年度、医師確保対策のため助成を予算化した。今後とも実効性のある医師招へい活動を検討する。

問 医療費の分析・考察作業の実態は。

答 国保データベースシステムが本年秋から稼働予定で疾病別医療費の経年データ分析など、生活習慣病予防対策の広範な資料作成が容易にできることから、

一層の保健指導に効果が期待され、各種の医療分析も可能になるものと期待している。

問 先進医療ローン制度に対する見解は。

答 先進医療を必要とする方やその家族への経済的支援として、本制度の様な新たな医療支援については、その効果、必要性を研究したいと考えている。



地域センター病院

入札事務作業は

問 正確で効率的な入札作業工程の見直しについて。

答 応札者の拘束時間を考慮すると工事規模や事業者等級に合わせた執行方法も関係機関・他の調査を含め事務の一元化と共